

平成30年度 第1回足立区経済活性化会議

会議録要旨

平成30年6月27日（水）
足立区役所本庁舎8階 特別会議室

(開催概要)

会 議 名	平成 30 年度 第 1 回 足立区経済活性化会議			
開催年月日	平成 30 年 6 月 27 日 (水)			
開催場所	足立区役所本庁舎 8 階 特別会議室			
開催時間	午後 2 時から午後 4 時まで			
出欠状況	委員現在数 17 名 出席委員数 14 名 欠席委員数 3 名			
出席委員	中根 雅夫	阿高 松男	岡田 ヒロミ	大坪 昭寛
	阿部 忍	入江 洋介	小早川 真樹	近藤 勝
	鈴木 又右衛門	瀧野 静江	なかだ えり	本山 功
	山崎 健	渡井 良昌		
事務局	(出席職員) 吉田産業経済部長、島田産業政策課長、近藤企業経営支援課長、 望月産業振興課長、浅見足立区勤労福祉サービスセンター事務局長、 立石企業経営支援課相談・融資係長、東海産業振興課商業振興係長、 松岡産業振興課ものづくり振興係長 尾股一般財団法人足立区観光交流協会総務課長 (事務局) 産業経済部産業政策課 産業経済協創担当係 海老原 管理係 早川			
会議次第	別紙のとおり			
会議に付した議題	1 足立区経済活性化会議委員の変更について 2 地域経済活性化基本計画及び、30年度産業経済部組織体制について 3 検討事項 (1) 健康経営について (2) 創業支援施設の入居促進について (3) あだちの輝くお店セレクションの実施結果及び今後の課題について 4 各委員からの報告 5 区からの報告事項 (1) あだち産業センターの現状と課題について (2) 足立区産業展示会「あだちメッセ」の開催結果について (3) 「異業種フォーラム2018 in あだち」の開催について (4) 観光イベント事業の日程について (5) 「第40回足立の花火」記念大会の演出及び有料席の拡大について			

(会議録要旨)

島田産業政策課長

みなさま、こんにちは。定刻になりましたので、「平成30年度 第1回足立区経済活性化会議」を開催させていただきます。

本日は、ご多用のところ、ご出席いただき、ありがとうございます。

私は事務局を担当しております産業政策課長の島田でございます。

よろしくお願ひいたします。

なお、本日の会議は公開となっておりますので、傍聴席を設けております。また、情報公開の関係で、庁舎2階にあります区政情報課におきまして、委員のみなさまの名簿・会議録・会議資料を公開させていただきますので、あらかじめご了承いただきたいと思います。

また会議録作成のために、本日の会議を録音させていただきます。こちらもご了承ください。

それから、本日は産業経済部の管理職、経済活性化会議事務局職員のほか、産業経済部の係長が同席させていただいております。

次に、本日の委員数を報告いたします。

委員定数17名、出席委員14名であり、本日の会議が成立していることを報告いたします。

それでは、本年度最初の会議で、人事異動により産業経済部内の管理職が代わりましたのでご紹介いたします。

産業経済部長 大高に代わりまして、吉田でございます。

続いて、企業経営支援課長 近藤でございます。企業経営支援課については、昨年度まであった中小企業支援課、就労支援課という2つの課が合わさって誕生した所管となっております。

続いて、産業振興課長 依田に代わりまして望月でございます。

続いて、勤労福祉サービスセンター事務局長 日比谷に代わりまして浅見でございます。

また、昨年度から引き続き、産業政策課長は島田が、観光交流協会事務局長は高橋が勤めさせていただきます。なお、本日は他の公務の都合により、観光交流協会事務局長の高橋は欠席させていただきます。

それでは、吉田産業経済部長よりご挨拶申し上げます。

吉田産業経済部長

改めまして、産業経済部長吉田でございます。よろしくお願ひいたします。本日はお忙しい中、また大変暑い中お越しいただきありがとうございます。非常に活発な意見が出ると伺っております。今回もよろしくお願ひします。まだまだ産業経済部内も多くの課題を抱えており、時代に追いついていない状況でもあります。皆様のご意見でよりよくしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

島田産業政策課長

ありがとうございます。

まず、はじめに団体内のご異動により新たに3名の方が委員とされました。委嘱状を授与させていただきますたく存じます。

本来なら近藤区長よりおひとりおひとりに委嘱状をお渡しするところではございますが、公務の都合により出席することができません。

そのため、委嘱状は区長に代わりまして、吉田産業経済部長が委員の方の席にお伺いして、お渡しします。

お名前をお呼びしましたら、自席でご起立いただき、委嘱状をお受け取りください。

吉田産業経済部長、お願ひいたします。

東京都中小企業振興公社城東支社 支社長 大坪 昭寛 様
足立区しんきん協議会 代表世話人 阿部 忍 様
足立区商店街振興組合連合会 副理事長 山崎 健 様

島田産業政策課長

ありがとうございました。

それでは、新しく委員となられたお三方に、簡単に自己紹介をお願いできればと思います。

(大坪委員、阿部委員、山崎委員、より自己紹介)

島田産業政策課長

ありがとうございました。

それでは、本日の配布資料を確認させていただきます。(資料の不足を確認)

では、この後の議事進行を、中根会長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(議事)

中根会長

皆さんこんにちは。本日は議題が詰まっておりますので、ご協力よろしく願いいたします。

前回の活性化会議では、委員の皆さんに活発なご意見をいただきました。今日も、わたくしのほうで指名いたしますので忌憚のないご意見を頂きたくご協力お願いします。

事務局より「地域経済活性化基本計画及び30年度産業経済部の組織体制について」説明があります。

その後担当課より、3件の「協議事項」があります。こちらについては、委員の皆様のご意見をお伺いすることを目的としておりますので、皆様の忌憚のないご意見をいただき、産業経済行政に活かしていきたいと思っております。

次に、事務局より「報告事項」が5件あります。

それでは、「次第」に沿って進めてまいります。

次第の1「足立区地域経済活性化基本計画及び30年度の産業経済部組織体制」について、事務局から説明をお願いします。

島田産業政策課長

すでに委員の皆様にお配りさせていただいておりますが、皆様のご協力のもと、3月に地域経済活性化基本計画が完成いたしました。委員の皆様の活発なご意見をいただき、足立区の地域経済活性化の方向性を示せたものと考えております。改めて御礼申し上げます。

今後、この計画を指針としつつ、委員の皆様から様々なご意見を頂戴しながら、産業経済行政を展開していきたいと考えております。引き続きご協力のほど、よろしくお願い致します。

また、計画の完成に合わせて部内組織の見直しを行っております。

大きな変更点としては、さきほど申し上げました企業経営支援課の誕生、区内事業者のIT・IoT導入を支援する、イノベーション推進担当の創設等があげられます。

そのほかの点については、資料3をご覧ください。また各事業の担当所管も一部変更となっております。こちらについては、本日お配りさせていただきました、平成30年度所管事務概要【産業経済部抜粋】及び、産業経済ハンドブックに記載がございますので、お時間のある時にご確認いただきたいと思います。

以上でございます。

中根会長

「地域経済活性化基本計画及び30年度産業経済部組織体制」について、委員の皆様、何か質問等はございますか。

ないようでしたら、続きまして、協議事項に移ります。

前回の活性化会議では話されなかった、「健康経営」についてですが、事務局から説明をお願いします。

島田産業政策課長

資料4の1ページをご覧ください。

平成29年11月13日にスマート・ライフ・プロジェクト(厚生労働省)が主催する「第6回 健康寿命をのばそう!アワード」において、足立区の糖尿病対策「あだちベジタベライフ ~そうだ、野菜を食べよう~」が、厚生労働省健康局長優良賞(自治体部門)を受賞しました。都内で初の受賞となります。

「健康寿命をのばそう!アワード」とは、企業、団体、自治体等において、「スマート・ライフ・プロジェクト」が掲げる4つのテーマ(適度な運動、適切な食生活、禁煙、健診・検診の受診)を中心に、健康増進・生活習慣病予防への貢献に資する優れた啓発活動・取組の奨励・普及を図ることを目的としています。平成29年度は企業、団体、自治体併せて70の団体が応募しています。

しかし、「第6回 健康寿命をのばそう!アワード」において、最も高い評価を受けたのは、この大分県の取り組みでした。

大分県と足立区との取り組みの差は、勤労者の健康に対する取り組みの有無であると足立区は分析しています。

足立区民の健康寿命は、都平均より約2歳短い」という事実を真摯に受け止め、従来の総花的な健康づくり対策から糖尿病対策に焦点を絞り、民間企業や団体の協力を得て進めてきた取り組みが、ひとつの大きな成果を挙げることができました。

そこで、次の取り組みとして、「健康経営」という言葉をキーワードとして、働く世代の健康対策の実施を区として検討しております。

健康経営とは「従業員の健康保持・増進の取組が、将来的に収益性等を高める投資であるとの考えの下、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること。」と定義されております。「健康経営」については、区内の信用金庫様にご協力をいただき、550社に対してアンケート調査を実施し、353社にご回答いただきました。その結果、「健康経営」という言葉を聞いたことがないという企業が全体の42.7%あり、認知度の低さが浮き彫りとなりました。また、現在健康経営を実施していないが、今後実施していきたいと答えた企業は全体の55.2%となり、取り組みの必要性を感じている企業が多いことがわかりました。

こうした状況を受け、今後、区役所内の認知度を高めた後、健康経営に取り組む企業の方々に対する、インセンティブを創設し、取り組みを促していきたいと考えております。

委員の皆様には、まず「健康経営」という言葉をご存知かどうか、またそうした取り組みをされているかどうかをお伺いしたいと思います。

続いて、健康経営に取り組む企業を増やしていくために、区が果たすべき役割について、皆様にご意見をお伺いしたいと思います。

以上です。

中根会長

事務局から「健康経営」について説明がありました。

ただいまの説明について、質問等はございますか。

吉田産業経済部長

補足として、大分では「健康経営」に取り組んでいる企業をアップロードし、表彰している点で非常に評価が高くなっています。東京都では、取り組んでいる企業をホームページ上で公表はしているが、それ以上の取り組みは行っていない現状です。

中根会長

インセンティブを作るという事だが、インセンティブとはどのようなイメージなのかをお聞きしようと思っていたが今、お答えをいただきました。企業の側から積極的に健康にこだわっていくという中で、健康に関する必要性の認識が高いことはわかりましたので、さらに話を進めていきたいと思えます。

事務局より2点のことについて、委員の方々意見を伺いたいとのことでした。まず第1に、「健康経営」について、「健康経営」の言葉をご存知か認知度の問題です。次に、「健康経営」に取り組む企業を増やすために区はどのような役割を負っていくか。この2点について、委員の方々の意見を伺っていききたいと思います。

では、大坪委員からこの2点について忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

大坪委員

「健康経営」という言葉に関しては、名前は聞いたことがあります。ただ、中小企業振興公社として「健康経営」に関して企業さんをバックアップする仕組みは今持っておりません。また、「健康経営」に取り組む企業さんを増やすための方策としては、実際「健康経営」を取り入れた成功事例があるのであれば、公表していくことが大事だと思います。やはり実績ありきだと思います。またそうでなければ、何を進めていくかをバックアップしていくのが区の姿勢なのかと感じました。

中根会長

ありがとうございます。では、入江委員ご意見をお願いします。

入江委員

この言葉を知っているかといえば、知らなかった。一般的な話としてなら存じ上げていました。一人ひとりの従業員が、しっかりと仕事ができる環境を整えることは重要であると思います。また、いろいろな仕組みづくりも重要かと思います。今後の取組みとして、なかなか評価の難しい言葉だと思います。フィジカル面で言えば、適正なシフトを組み、働きすぎない。メンタル面では、コミュニケーションをしっかりとり健康的な関係性を作っていくことかと思っています。会社の方向性なども含めたものと考えており、そのあたりの評価が難しいと思います。

中根会長

「健康経営」について、区に期待する役割は具体的に何かありますか。

入江委員

区に期待する役割としては、指標になるのではないのでしょうか。フィジカル、メンタルともに、どのような項目をクリアすることが正解なのか、「健康経営」の成功事例があるとありがたい。そうしたものをもとに、自社の弱みを捉えることができれば、対策をとることができるため、指標のようなものがあると良いと思います。

中根会長

わかりました。次に近藤委員お願いします。

近藤委員

「健康経営」については、医療費の増大が社会問題となっておりますし、大変重要なテーマであると考えています。私も中小企業も積極的に分煙室をつくるなどしております。しかし、ただ分煙室を作るより、タバコを吸わない人のための健康、吸っている人の健康があると思います。しかし、なぜ、分かれて吸わなければならないのかなどの認識が低い。中小企業に従事している社員は講習会などに出席している時間はなかなか取れない実情ではあるが、一人ひとりの認識を高める講習会の実施や、助成を区にしてもらいたいと思います。

中根会長

わかりました。次に瀧野委員お願いします。

瀧野委員

私は会社経営を行っておりませんので、会の活動の観点から発言させていただきます。私の場合には、区の様々な所管と接する機会があり、健康に関する情報も充分に入手できているため、健康を維持できています。そうして得た健康に関する情報については、毎年10月に実施しているくらしフェスタにおいて、パンフレットを渡す、パネル作成での周知などを行っています。

中根会長

ありがとうございました。次に本山委員、お願いします。

本山委員

われわれはエンジニアの集団ですので、従業員が健康を害する事態になると、売り上げにも影響がでますし、顧客にも迷惑をかけてしまうことになるため、「健康経営」は非常に気になる言葉です。しかし、言葉は知ってはいたが、どのように取組むかについては、あまり考えられていません。区の役割については、当社はワークライフバランスの認定も受けているが、こうした取り組みをしようとしたときに、何をしたらいいのかがわかりませんでした。そのため、実際に取り組んでいる事例などにより、継続してできるように支援してもらい、冊子を作成し事例の紹介をしてもらうなどが考えられると思います。

中根会長

ありがとうございました。次に渡井委員お願いします。

渡井委員

自社が「健康経営」をしているかという、わかりません。ただ、食に携わる立場として、自社事例を申し上げますと、男女 30 名全社員の健康診断と年 1 回のインフルエンザの予防接種などを会社費用で行っています。深夜勤務者には、半年に 1 回の健康診断が義務付けられているはずですが、ほとんどの事業所で実施されていません。当社では、深夜勤務者である男性社員に半年に 1 回の健康診断の実施をしています。このほか、インフルエンザ予防接種などの努力をしております。加えて、男性社員については毎月検便を実施しています。こういったことが、求人時の安心材料になっています。こういった取組みを足立区ホームページなどで公開していただければ、当社にとっても大きな利益になると思います。東京都のホームページでも公開してもらっており安心感を与えることが、営業面や社員満足度にもつながっていきます。健康でいることが、高齢化社会の求人難の時代には大切なことで、今働いている社員がいつまでも働いてもらえるようにすることは、企業としての使命だと思います。食に関する事業を営んでいるため、社員の健康管理は事業者には必須のことだと思うので、健康管理に気を配っていただきながら、ご本人が望むなら 70 歳まででも働いていただきたいと思っています。

中根会長

ありがとうございました。次に阿部委員お願いいたします。

阿部委員

「健康経営」という言葉は 2015 年経済産業省が提唱したと記憶しています。当社におきましては、H28. 12 に東京都信用金庫健康保険組合を通して、健康企業宣言として「従業員の健康は企業の心、活気ある職場は従業員の健康づくりから」として宣言をいたしました。当金庫の活動が認められ、健康優良企業認定銀賞をいただきました。足立区には、9 つの信用金庫がありますがたぶん皆さん同様の取組みをされていると思います。具体的には、7 つの宣言を行っており、健康診断受診率 100%、健診結果の活用、健康づくり環境の整備、食に関する取組み、運動、禁煙、心の健康に対する取組みを宣言しています。これらに対しどのように取り組んでいくかですが、ポスターを作成し職員がこれらの取組みの標語を日常的に目にするようにしました。

先日、区の要請を受け、区内企業の健康経営に対する意識調査にしんきん協議会としてご協力させていただきました。その結果、まだまだ「健康経営」に対する区内企業の認知度が低いことが明らかとなりました。そのため、区に対する要請については、区内企業に対して意識の喚起、動機付けを行っていただきたいと思っています。しかし、区がセミナーを開いても、なかなか人は集まらないと思います。どのような手段を使って広報していくかについて、よく検討していただき、周知に必要なパンフレット等あれば、しんきん協議会を活用して区内企業に渡して行くのも手だと思います。区内 9 つの信用金庫でバックアップしたいと考えております。いろいろと一緒に考えたいと思っています。

中根会長

ありがとうございました。次に小早川委員お願いします。

小早川委員

「健康経営」という言葉は聞いたことがある程度です。正直なところ、私の周りの経営者の中では話題にもなっておりません。従って、議論もしておりません。今回の話を受け、事例集などで「健康経営」の内容について知りたいところです。リスト化されたもので、明確化された冊子などを作成し配布していただければ、「健康経営」につながっていくのではないかと思います。先ほどのインセンティブについてのお話は、インセンティブがあるので「健康経営」をするというのは本末転倒のような気がします。「健康経営」をすることにより、経営全般が健康になっていくこと自体が、自社にとってのインセンティブになるのではないかと考えています。

中根会長

ありがとうございました。次に鈴木委員お願いします。

鈴木委員

「健康経営」という言葉は今回初めて伺いました。私は同業者が集まった健康保健組合の理事を務めておりますが、この話題について、一番熱心に活動しているのは、健康保険組合だと思います。2年に1回程度、保険料率をあげていても、財政状況が厳しい状態にありますので、危機的な状況です。現状では、いかに保険料を集めるかよりも、いかに支給を減らすかが喫緊の課題となっています。そのため、健康保険組合が中心となって、この話題を議論することは必要だと思いますが、区がこの話題について有効な議論ができるのかどうかについては疑問に思います。

中根会長

ありがとうございました。次になかだ委員お願いします。

なかだ委員

健康については個人的に一番関心の高いテーマです。一般的に、会社で行う健康診断を受ける方が多いと思いますが、ただ受けるだけではなく、その結果についての活用や、基準値を超える数値等があった場合の対応など、改善の仕方まで含めた指導が必要ではないかと思います。また、会社の経営者や担当者が研修を受けて意識が高まったとしても、その会社の社員まではなかなか伝わらないため、社員にまで健康経営の研修内容が伝わるような工夫を考えていく必要があると思います。

中根会長

ありがとうございました。次に山崎委員お願いします。

山崎委員

商店街としては、区が実施するベジタベライフや地産地消等、色々と協力をさせていただいています。また、北千住地区は禁煙区域の指定なども行われており、区の施策が色々と展開されていると思います。健康経営という言葉自体は、聞いたことがありますが、細かい中身は把握できておりません。健康経営の周知については、区内企業は零細企業が多いため、なかなか難しいのではないかと考えています。

中根会長

ありがとうございました。次に岡田委員お願いします。

岡田委員

消費生活相談員は元気な方が多いが、その方のご両親等の介護に苦勞されている方が多く、ご本人だけでなく、その家族の健康も非常に大切なことではないかと考えています。そのため、健康診断の受診だけでなく、困ったときや体調を崩したときなど、周りに助けを求められる環境を作ることが重要でないかと考えています。

中根会長

ありがとうございました。次に阿高委員お願いします。

阿高委員

私の職場でも健康診断は実施していますが、二次検査等が必要な方への通知が来ても、病院に行かない方も多いため、強制的な手段も必要なのではないかと思えます。またメンタルの問題については、やりがいのある職場づくりが重要ではないかと思えます。私の知る事例では、認知症の方が働くカフェがあり、お客さんには注文を間違えることがある旨をはじめから周知しているため、トラブルもなく、働く側は生きがいをもって働くことで認知症の進行を食い止め、集う側も笑顔になるような場が出来上がっていると聞いております。やはり、働く方々がやりがいをもって勤めることができる環境づくりが、重要ではないかと思えます。

中根委員

ありがとうございました。各委員から貴重な意見が多数でました。事例を公表してはどうか、健康経営の指標をもうけてはどうか、講習会を開催したらどうか、他の企業の取り組みを区のホームページ等で公表してはどうか、認定制度を作ってはどうかといった、意見があったかと思えます。委員からの意見に対して、区からの意見があればお願いします。

吉田産業経済部長

会社を通して、家族を健康にするといった新しい視点など、参考になるご意見を多数いただきました。楽しみながらできる取り組みを今後考えていきたいと思えます。

中根会長

次に創業支援施設について、皆さんのご意見をいただきたいと思えます。担当課から説明をお願いします。

近藤企業経営支援課長

足立区の中に、創業支援施設は3箇所あり、足立区が運営する「かがやき」、東京電機大学が運営する「かけはし」、足立成和信用金庫さんが運営する「あかつき」となっております。もう1箇所「はばたき」という施設がありますが、こちらは閉鎖予定となっております。創業支援施設が区内に3箇所あるというのは、特異なところであり、創業に手厚く取り組んでいる状況でございます。しかし、民間が設置する都心の創業支援施設が充実してきており、入居起業の確保に苦戦をしている状況です。東京電機大学が設置する創業支援施設のうち、インキュベーションオフィスは個室、シェアードオフィスは空間をお貸しする内容となっております。最近特にシェアードオフィスの入居が低調な状況です。区内の創業支援施設3箇所の活用について、委員の皆様からご意見をいただければと思えます。

中根会長

ただいま説明のありました、創業支援施設の今後について、私から一言申し上げたいと思えます。川崎市にあるインキュベーション施設の事例をご紹介したいと思えます。こちらは神奈川県、川崎市、地元企業が出資して設立したインキュベーション施設ですが、当初入居企業の確保に苦戦しておりました。その後、入居企業が増え、別にもう一棟作るまでになりました。何が変わったかと申しますと、入居企業の個別対応、個別支援を徹底して行ったというところがあります。そうしたこともあるので、足立区においても行っている創業支援の相談員、中小企業診断士等が行う個別企業への支援を、もっと売り出して、入居企業を募ってはどうかと考えています。近頃、若い世代の創業者が減っていること、企業に勤めたのちに起業する中高年の方々も減っているように感じており、創業者の確保競争が激化しているかと思えますが、足立区の地域特性を踏まえながら創意工夫をしていただきたいと思えます。

本山委員

私は創業支援施設に入居していたため、意見を申し上げたいと思えます。私が入居したのは2008年でリーマンショックの後でした。家賃が安かったことが決めてとなって、足立区の施設に入居しましたが、その当時、創業支援施設はどこも人気があり、なかなか入れませんでした。退去してからしばらくたちますが、おそらくその当時と今現在でサービスの違いはそれほどないかと思えます。

足立成和さんの創業支援施設の入居状況はどのような状況ですか。

阿部委員

創業支援施設「あかつき」は千住旭町にございます。個室タイプの部屋が6室あり、4社が入居し

ています。現在、再度入居企業を募集している状況です。

本山委員

私が入居した当時としては、創業支援施設に空きがあるという状況は考えられませんでした。特に「かがやき」はとてもいい場所に立地しており、採用活動にも有利に働いたほどです。そういう意味では魅力的な物件だと思います。

足立区以外の施設の状況は詳しくわかりませんが、国も創業支援に力を入れている状況もあり、現在は創業支援施設が飽和状態にあるのではないかと思います。インキュベーションマネージャーの存在も、当時は非常にありがたかったですが、今では当たり前の存在になっているのかもしれませんが。例えばつくば市は、秋葉原にサテライトを作って、企業とミーティングや商談ができる場があると聞いており、特色を出しています。足立区の施設も、何か特色を出す必要があるのではないかと思いますし、仮に施設を縮小していく方向になったとしても、現状ではやむを得ないのではないかと考えています。

中根会長

本山委員の意見に対して、区からの意見があればお願いしたいと思います。

吉田産業経済部長

今お話にあったような、区独特な部分が必要ではないかという話は、区の中でも意見が出ております。今の時代にあった創業支援施設について、今後検討していきたいと思います。

中根会長

他に意見のある委員の方はいませんか。

阿高委員

インキュベーションルームの方は入居企業が入っているが、シェアードオフィスの入居企業は少なくなっています。東京駅近郊にできているシェアードオフィスは、どこに人がいるのかが見渡せるつくりになっています。また、ビジネスの電話をするための遮音性がある電話ルームも備えられています。東京電機大学のシェアードオフィスは、壁が高く、入居者が見渡せないうえ、電話の声は周りに聞こえてしまう点が、難点になっています。

また、シェアードに入る創業者は、現在企業に勤めている人が、独立起業の準備のために入居しているような例も多い状況です。そうした人は夜間にシェアードで作業をすることがあり、インキュベーションマネージャーと時間帯が合わないといった課題も出てきています。

これについては、シェアードオフィスの賃料が低額であるために、前述のような利用が増えてしまっていると考えられるため、料金の兼ね合いも検討していかなければならないと思っています。

入江委員

今現在弊社の事業として、コワーキングやシェアードオフィスとホテル機能を一体的に提供するようなサービスを研究しています。ニューヨークの企業が都心で展開し、人気を集めているコワーキングでは、魅力的な人たちがそこに集まっていることが利用者に見えるようにし、スタッフが入居者の特徴を捉えて、入居者同士の結びつきを積極的に行うようにしていました。加えてその施設では、そうしたことをスタイリッシュに行っており、行きたくなるような工夫がされていました。

また、日本以外の事例としては、登録企業の業務内容や特徴と、今その企業が施設内にいるのかどうかを一体的に画面で表示し、マッチングを促すといったことに取り組んでいる施設もありました。

中根委員

足立区の創業支援というのは、インキュベーションマネージャーによる個別支援が特徴となっていますが、入江委員から発言があった、入居者の自主的な結びつきを促すようなインターフェイスというものも、重要になってくるかもしれません。今後、区のほうで検討していただければと思います。

続いて、次の検討事項に移りたいと思います。輝くお店セレクションについて担当課長より説明をお願いします。

望月産業振興課長

平成29年度あだちの輝くお店セレクションは「手土産・贈答品にイチオシの足立区内のお店」として、10月2日から11月7日の約1ヶ月を募集期間として実施しました。応募総数は、371件ございました。チェーン店（日本チェーンストア協会規定：全国に11店舗以上の店舗がある）ではないか、チェーン店であっても足立区発祥で系列店舗の1/2が足立区内であれば対象とするなどの審査を経て、上位10店舗について発表いたしました。

今回、ご意見を頂戴したいのは、今後の課題として挙げております3点です。1応募数の確保、2興味を持っていただけるテーマの設定、3選ばれたお店に対する今後の対応です。

昨年度は、1ヶ月で400件弱の応募をいただいております。今年度は、興味を持っていただきやすいテーマ設定と関係が大きいため、この2つ(1と2)は一緒にご意見を頂戴できればと思います。

募集手段については、昨年は、FAX、ホームページ、ものづくり展での直接応募でした。今年度からは、直接記入ができる場を区民まつりや庁舎アトリウムと2箇所増やす予定です。広報活動や、今後取り上げたらよいのではというテーマについて、ご意見を頂戴できればと思います。

次に選ばれたお店に対する今後の対応です。昨年選出の店舗に対しては、ホームページでの広報のみであります。今後、セレクションに選ばれて良かった、選ばれてみたいという魅力や価値を高めるため、どのようなPR活動をしていけばよいかについて意見を頂戴できればと思います。今年度は昨年選出した店舗のパネル展をイベント時に実施しようと計画しています。

中根会長

ただいま説明がありました事業について、1応募数の確保、2興味を持っていただけるテーマの設定、3選ばれたお店に対する今後の対応の3点について、意見を求められております。ご意見のある委員の方がいましたらお願いします。

山崎委員

商店街振興組合連合会としては、加盟店での周知等協力させていただき、今回の10店舗の中には、商店街振興組合連合会の加盟店舗も多数選ばれている。個店の店舗がやる気を出すようなインセンティブのある事業であるため、今後も続けていただきたいと考えています。

中根会長

今の山崎委員の意見について、区のほうから意見はありますか。

望月産業振興課長

インセンティブとしては、広く周知をすることであるとのご意見をいただいておりますので、しっかりと周知をしていきたいと思っております。

近藤委員

周知をしっかりといただくことに加え、選ばれた商品が買いやすい環境も整えていただければと思います。

望月産業振興課長

貴重なご意見をいただきましたので、今後検討させていただきたいと思っております。

吉田産業経済部長

足立区内は小さな店舗が多く、販売量が急激に多くなると生産が追いつかないといった状況もあるようです。そうした兼ね合いも踏まえ、選ばれたお店にとってインセンティブとなるよう、お店と相談しながら事業を実施していきたいと考えています。

中根会長

他にご意見ございますか。

阿高委員

この事業については、全国に展開できるよう活性化したいということなのか、それとも足立区内のお土産として普及させたい予定なのでしょうか。

望月産業振興課長

全国的に展開できれば理想ですが、まずは足立区内で魅力的な個店にスポットをあて、そこから周りの商店にも足を運んでもらえるようにしたいとの狙いから事業を展開しております。

阿高委員

皆さんご存知の東京ばななについては、一日に1千万円を売り上げるそうで、生産が追いつかないために、生産工程を自動化しております。私はその自動化機械を生産している会社を知っていますが、工場をどんどん自動化して、人の手がかからないようにしているとのこと。これからは足立区を訪れる外国人も増えていくと思われるため、足立区に行ったらこれを買おうと言われるような商品がでてくるよう、PRしてもよいと思います。

望月産業振興課長

部長も申し上げたように、それぞれのお店の事情もございますので、その事情を聞きながら対応していきたいと思います。

中根会長

先ほどの部長の発言は、足立区内向けの販売をする段階でも製造が追いつかないような事例があったということでしょうか。

吉田産業経済部長

例えば、今回この事業で選ばれたお店の一つは、人気のあるテレビ番組で取り上げられたことをきっかけに、特定の商品に多くのお客さんが殺到し、お店が疲弊してしまったという事例がございました。お店の方針として、生産を増やしたいのか、一つ一つの商品にこだわって作っていききたいのか、そうしたことにも寄り添って、対応していきたいと思います。

中根会長

続いて、次第4、各委員からの報告です。ここでは、各委員の皆様の日ごろの活動の中から、地域経済活性化基本計画に関連した活動について、ご報告をお願いできればと思います。

まず、オレンジアーチの本山委員より、ご報告をいただければと思います。

本山委員、よろしく申し上げます。

本山委員

【本山委員より、活動内容の報告】

私はIT事業者ということで、飯田橋に本部がある同業者が集まった団体があり、その中で中小企業の困りごと相談をする委員会がございます。そこで、経済活性化会議でも議論された足立区の課題について、講演とディスカッションを行いました。ITで何ができるかを考えたときに、私が一番興味を持っているのが自転車の盗難対策です。この話題について、ディスカッションし、非常に壮大な内容の解決策などが出ました。いずれ議論した内容を、自転車盗難対策の解決に結びつけていけると考えています。

中根会長

今後足立区の課題を解決していく上で、ITの力は様々な場面で必要になってくるかと思っておりますので、今後とも研究していただき、経済の活性化に貢献していただければと思います。続いて、小早川委員申し上げます。

小早川委員

【小早川委員より、活動内容の報告】

私から足立ブランドユースの活動をご紹介させていただきたいと思っております。皆さん足立ブランドについてはご存知かと思いますが、このブランド認定を受けている企業の中で、若手の経営者グループを作って、活動を行っています。今年で発足4年目となります。発足の理念としては、足立ブランド認定企業は歴史ある企業が多いため、若手経営者や経営者候補が切磋琢磨して成長できる場を作りたいという思いと、足立ブランドとして、展示会への出展等について区から助成を受けるなど、税金を使わせていただいておりますので、何かしら区に恩返しをしたいという2点があり活動させていただいております。

活動内容としては、月1回勉強会、情報交換会を実施したり、各会社の工場見学会等を行っており、そうした活動の中からコラボ商品の製作等、企業の連携が生まれております。

また、経営者合宿として、足立区の宿泊施設を利用して、勉強会や、ものづくり企業が本気で取り組むレクリエーション等を泊りがけで実施し、連携を強化しております。そのほか、関東財務局とコラボした、東京活性化ミニサロン、足立ブランド企業全体で楽しむボーリング大会の実施、他地域の若手経営者グループとの交流を行っております。区からの支援はいただく、自分たちで経費を出し合って自由に活動させていただいております。

中根会長

全国的に、後継者不足が言われている中で、若手の方が中心とした活動をますます盛り上げていただければと思いますが、月1回の定例会ではどのようなお話をされているのでしょうか。

小早川委員

各企業の人材や財務といった課題について、アドバイスしたり、情報共有したり、様々なテーマで行っています。

中根会長

情報共有をすることは、どのような効果がありますか。

小早川委員

企業同士の連携が強まる効果があると思います。よく経営者は孤独であるといわれますが、関係ないなと思っています。

中根会長

他都市の若手経営者の方々との交流では、どのようなお話がありましたか。

小早川委員

東大阪市に伺った際は、東大阪市のブランド認定は商品認定になっていることもあり、事業者同士の横の連携があまりないというところで、足立ブランドの活動に興味をもたれたとのお話でした。その後、スカイプ等を使って、定期的な交流をもつことになっており、場所を超えた交流に繋がっています。

中根会長

東大阪市といえば、パナソニックが所在しており、ここを退職された管理職の方々がインキュベーションマネージャーとして活躍している事例があります。こうした方々は人脈をお持ちで、ベンチャー企業の販路拡大等に有効なアドバイスをされていると聞いています。

中根会長

続いて、区より5件の報告事項がございます。まず、あだち産業センターの現状と課題について、報告をお願いします。

近藤企業経営支援課長

【あだち産業センターの現状と課題について報告】

吉田産業経済部長

あだち産業センターの1階については、図書機能と、工業製品の展示、ワークスペースといった機能がありますが、現在特定の人々の利用にとどまっており、広く利用していただける場になるよう、機能変更を検討しております。この場以外でも結構ですので、ご意見や、専門的な知識を有する人材の情報等ありましたら、お寄せいただければと思います。

望月産業振興課長

【足立区産業展示会「あだちメッセ」の開催結果について報告】

中根会長

今の報告のうち、出展者からの意見の中で、あまり意義がなかったとの回答が全企業の19%から寄せられているようですが、どんな状況がこの回答からうかがえるのでしょうか。

望月産業振興課長

具体的な回答を見ていくと、あだちメッセが回を重ねる中で、マンネリ化しているのではないかとの意見がありました。これについては、3月に開催した際、足立区外の企業とのマッチングの場を設けましたが、今年度はこれを拡大し、マンネリ化を打破したいと考えています。

中根会長

ありがとうございました。続いて、「異業種フォーラム2018 in あだち」の開催について、報告をお願いします。

望月産業振興課長

【「異業種フォーラム2018 in あだち」の開催について、報告】

中根会長

今年度から、懇親会を実施するとのことでしたが、去年は実施していなかったのでしょうか。

松岡産業振興課ものづくり振興係長

昨年度は実施しておらず、参加企業から実施についての要望があがっておりました。

阿高委員

この会の具体的な成果はでているのでしょうか。

松岡産業振興課ものづくり振興係長

具体的な成果は把握しておりませんが、異業種連絡協議会への新規加入企業が現れたり、企業間の受発注に向けた動きがあると聞いております。

中根会長

続いて、観光イベント事業の日程について報告をお願いします。

島田産業政策課長

【観光イベント事業の日程について、説明】

渡井委員

しょうぶまつり&世界の食広場についての案内がありましたが、このイベントは数少ないB to Cで飲食のアピールができるイベントだろうと思います。こうしたイベントにおいて、先ほどご紹介のありました、あだちのお店セクションに選ばれた商品の販売等を行ってはどうかと思います。各お店の生産力の問題等はあるかと思いますが、PRしないのはもったいないと思いますので、ぜひ足立区の飲食や物産が集うようなイベントをご検討いただければと思います。

吉田産業経済部長

委員のおっしゃるとおり、あだちの輝くお店セクション事業も実際に食べていただけるよう、イベントの実施時に販売までつなげられれば理想的だと思います。今回ご紹介したイベントは、一般財団法人足立区観光交流協会という、外郭団体が実施するイベントになりますので、そちらとの調整は必要かと思います。このイベントで実施するのが良いのか、はたまた別のイベントが良いのかも含めて、今後検討していきたいと思います。

中根会長

B to Cの話に関連して、私は舎人公園でバーベキューを実施したことがありますが、公園の周辺に飲食店が少なく、買い物に苦労したことがございました。あれだけ素晴らしい環境があるので、人を呼び込む意味でも、事業者のためにも、飲食店の充実を図ったらよいかと思います。

島田産業政策課長

委員のおっしゃるとおり、舎人公園の周りは飲食店が少ない状況にあります。都立公園ということで、区が直接的に行えることが限られている状況です。

現在公園を利用されている方は、事前に食材等は購入されて訪れる方が多いようですが、食材を追加で購入するのは困難な状況にあります。こうした中、公園まで食材や飲料を配達する酒屋さんがいたり、区が舎人公園でイベントを開催した際は、足立成和信用金庫さんにご協力いただきながら、かなりの数の飲食店を公園内に出し、とても人気を集めていました。公園周辺の不便さを活かした戦略もあるため、一概に何が悪いとは言えないと思っています。

また、しょうぶまつりのイベント時は、地元の商店街にご協力いただき、デザートやパンのお店に出展していただきました。今回出展していただいたお店は、輝くお店セレクションで選ばれたお店ということで出展していただいたわけではありませんが、今後については、検討していければと思います。

東海産業振興課商業振興係長

しょうぶまつり実施時に、今回輝くお店セレクションで選ばれた2店が出展していただいております。今後もこうした関係性を大事にし、イベントへの出展などを呼びかけていきたいと思っています。

阿高委員

舎人公園は、足立区独自にてこ入れすることはできないのでしょうか。

吉田産業経済部長

都に対して、区民の方からの要望等は伝えており、ショップが一店舗できたりと、改善されている点もありますが、区が何かをするということではできない状況です。

阿高委員

あれだけの広さがあるって、もったいないという気がします。船橋のアンデルセン公園などは家族連れでにぎわっており、相当な人が訪れています。

吉田産業経済部長

パーベキュー広場が拡張されるなど、てこ入れしていただいている部分もありますが、区が直接的にできることはない状況です。

中根会長

よろしいでしょうか。最後に、「第40回足立の花火」記念大会の演出及び有料席の拡大について報告をお願いします。

島田産業政策課長

【「第40回足立の花火」記念大会の演出及び有料席の拡大について、報告】

渡井委員

花火について、土手に座ってらっしゃる方は、音楽と合わせた壮大な演出を楽しむことができるかと思っています。また、ジェイコムさんの放送を自宅でみることで、現場にいるのと同じように演出を楽しむことができるかと思いますが、現代は皆さんスマートフォン等で動画を視聴する時代ですので、ぜひインターネットで動画配信をしていただきたいと思います。ジェイコムさん自身がインターネットサービスを展開されているので、不可能な話ではないかと思っています。

吉田産業経済部長

ジェイコムに確認をしてみたいと思います。

中根会長

それでは予定の案件は終了いたしました。全体を通して、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

岡田委員

本日消費者センターの事業概要も配布されておりますので、こちらの内容について触れさせていた

だきたいと思います。今現在、足立区の消費者センターへの相談で多いのが、法務省を騙った架空請求です。なぜか60代の女性がそうした電話を受けるケースが多くなっています。幸いなことに、お金を振り込む前に相談をいただくことが多いため、被害を防げていますが、周囲の方への注意喚起をお願いできればと思います。

また、成人年齢の引き下げに伴い、国をあげて消費者教育に取り組む予定となっています。そうしたときに、高齢者に対する消費者教育が手薄になる可能性がございますので、今まで以上に高齢者の方の被害防止にご協力をいただければと思います。

中根会長

他にご意見がなければ、議事進行を事務局にお返しいたします。

島田産業政策課長

中根会長ありがとうございました。

本日の会議はこれで終了となります。ありがとうございました。

以上